

令和3年5月14日

校長室だより

第2号

座間市立相模中学校
校長 金子 憲勝



8日の土曜参観と部活動保護者会報告

保護者の皆様のご協力により、8日の土曜参観と部活動保護者会は計画どおりに実施することができました。特に、土曜参観は昨年度実施することができなかつたので、今年度は何とか実施したいと考え、感染症対策として学年ごとに参観時間を変えると共に、人数を制限する工夫をしました。その結果、混乱なく行えたことに対して、保護者の皆様のご協力に厚く感謝申し上げます。

日野原重明先生の言葉と鎌田實先生の詩より

11日(火)の朝会時に私は、日野原重明(ひのはらしげあき)先生の言葉と鎌田實(かまたみのる)先生の詩を生徒たちに紹介しました。このお二人については、保護者の皆様もご存じの方が多い事と思いますが、お二人とも日本を代表する医師です。一人目の日野原重明先生は、平成29年7月に105歳で亡くなりましたが、私は日野原先生のお話を聞きたくて、10年ほど前に東京で開催された先生の講演会に参加しました。その時の先生の温かな声は私の心に響き、私はそれ以後先生の本を何冊か読み、「10歳のきみへ」という本の中に書いてあったことを11日の朝会で紹介しました。その内容は……

日野原先生は、小学生の時に「すぐに顔が真っ赤になる赤面恐怖症」だったそうです。同級生からは、赤い顔と太った体から「金太郎」と呼ばれていて、赤面恐怖症がコンプレックス(劣等感のこと)になっていました。その後、中学校に進学し、『コンプレックスから逃げるのはやめよう!』と決意して、弁論部に入部し、何度も人前で話をするうちに徐々に人前で話をするのが得意になり、赤面恐怖症を克服できたそうです。その経験から、日野原先生は次の言葉を残しています。

『鳥は、飛び方を変えることができない。動物は、這(は)い方や走り方を変えることができない。しかし、人間は生き方を変えることができる。』です。

日野原先生は、自分の経験から「人間は、生き方を変えることができる!」と、私たちに伝えてくれています。

もう一人の鎌田實先生は、現在諏訪中央病院名誉院長で地域包括ケア研究所所長を務められており、精力的に活躍されています。本を多数出版されており、テレビやラジオにも出演されています。その鎌田先生が以下の詩を書かれていたので、生徒に紹介しました。

人間は、弱い生き物である。
生まれたとき、一人では生きられない。
誰かの力を必要としている。
これからどんな時代がやってこようとも、
人はつながりの中で生きていく。
つながりの大切さを知ったとき、人は少しだけ強くなり、
人は少しだけ優しくなる。
つながりのなかに、生きる意味と、生きる力が隠れているんだ。
きっと。



鎌田先生は、この詩の中で「つながりの大切さ」について述べています。新学期が始まり、1か月以上が経過しました。生徒一人一人には、良いことだけではなく、つらいことや悲しいこともあったことだと思います。つらいことや悲しいことがあった時に、他の人からの温かな言葉がとても嬉しいので、「元気のない人がいたら、優しく声をかけてください」と話しました。